

## 「令和6年能登半島地震」について（第14報）

－引き続き活発な地震活動に注意－

地震活動は依然として活発な状態です。今後1週間程度、最大震度5強程度以上の地震に注意してください。

引き続き、強い揺れを伴う地震への注意をお願いします。また、海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意する必要があります。

### ○ 地震活動の状況

1月1日に発生したM7.6（最大震度7）の地震から3週間が経過し、地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的には緩やかに減少していますが、平成16年（2004年）新潟県中越地震や平成28年（2016年）熊本地震などと比較しても、地震回数は多く推移しています。

### ○ 今後の地震活動の見通し

1月1日に発生したM7.6の地震の発生前と比較すると依然として地震活動は活発な状態です。今後1週間程度、最大震度5強程度以上の地震に注意してください。最大震度6弱以上の地震についても、M7.6の地震の発生直後に比べると低くなってきているものの、依然として、発生する可能性があります。なお、日本海沿岸の大地震である昭和39年（1964年）の新潟地震（M7.5）や昭和58年（1983年）日本海中部地震（M7.7）、平成5年（1993年）北海道南西沖地震（M7.8）の際には、最大の地震の約1か月後に大きな規模の地震が発生しています。昨年12月までと比べて地震活動の範囲は広がっており、これまでより広範囲で強い揺れを観測しています。また、海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波に注意する必要があります。

1月15日に地震調査研究推進本部地震調査委員会が開催され、この地震について詳細な検討がなされた結果、「これまでの地震活動及び地殻変動の状況を踏まえると、2020年12月以降の一連の地震活動は当分続くと考えられる。特に今回の活動域及びその周辺では、今後強い揺れや津波を伴う地震発生の可能性がある。」とも評価されています。

○ 防災上の留意事項

1月1日に発生した M7.6 の地震により揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっていますので、復旧活動などを行う場合には今後の地震活動や降雨・降雪の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所に立ち入らないなど身の安全を図るよう心がけてください。

○ 震度 1 以上の地震回数（22 日 12 時 00 分現在）

1 日 16 時以降、震度 1 以上を観測した地震が 1487 回発生（震度 7 : 1 回 震度 6 弱 : 1 回 震度 5 強 : 7 回 震度 5 弱 : 8 回 震度 4 : 44 回 震度 3 : 154 回 震度 2 : 388 回 震度 1 : 884 回）。

本件に関する問合せ先：

（全般について）

地震火山部 地震津波監視課

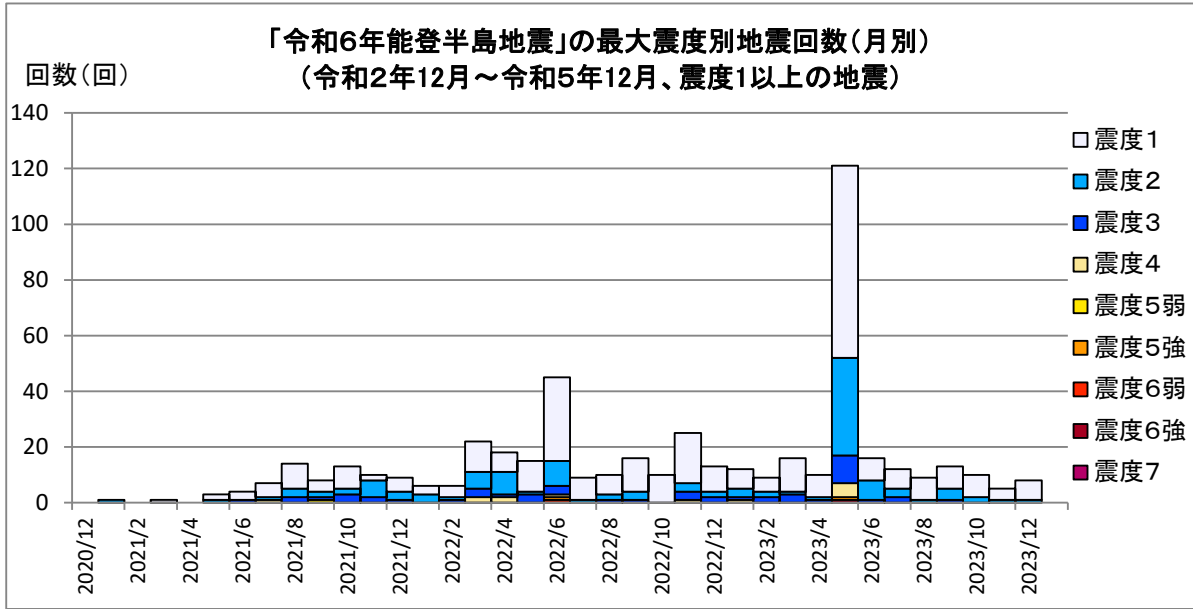
電話 03-3434-9041

（地震活動について）

地震火山部 地震火山技術・調査課

電話 03-3434-9040





【令和2年(2020年)12月以降の発生回数(年別)】

年別	最大震度別回数										震度1以上を 観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計		
2020/12/1 - 12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2021/1/1 - 12/31	39	19	10	1	1	0	0	0	0	0	70	70	
2022/1/1 - 12/31	130	39	18	6	0	1	1	0	0	0	195	265	
2023/1/1 - 12/31	151	61	21	6	0	1	0	1	0	0	241	506	
総計(2020～2023)	320	119	49	13	1	2	1	1	0	0	506	506	

2020～2023	320	119	49	13	1	2	1	1	0	506	506	
2024/1/1 -	884	388	154	44	8	7	1	0	1	1487	1993	
総計(2020/12/1～)	1204	507	203	57	9	9	2	1	1		1993	

※2024/1/1以降は領域を広げてカウントしています。

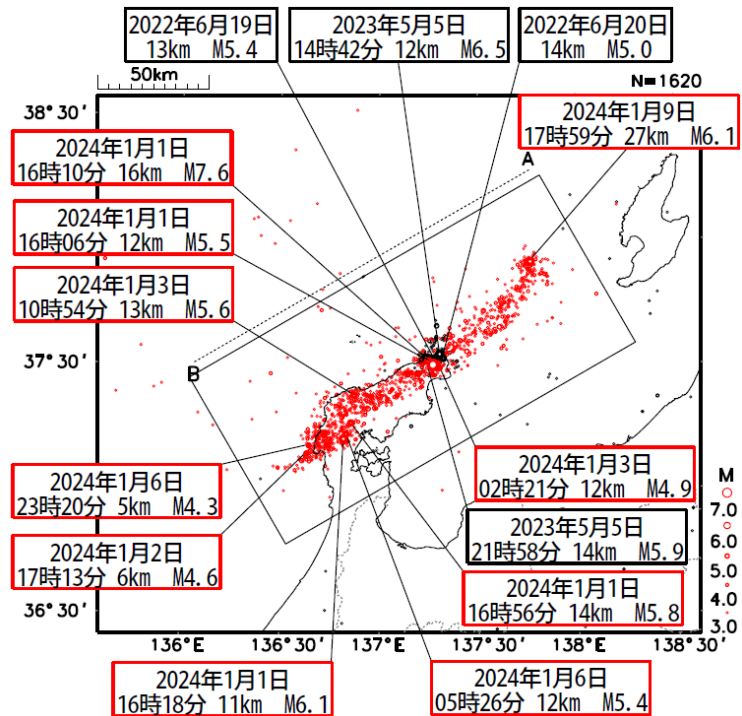
# 「令和6年能登半島地震」の地震活動 (発生場所の詳細)

## 震央分布図

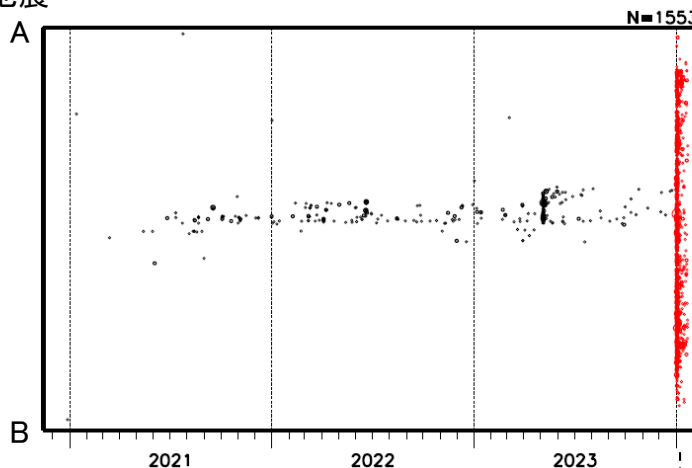
(2020年12月1日～2024年1月22日09時00分、  
深さ0～30km、M3.0以上)

2024年1月1日以降の地震を赤く表示

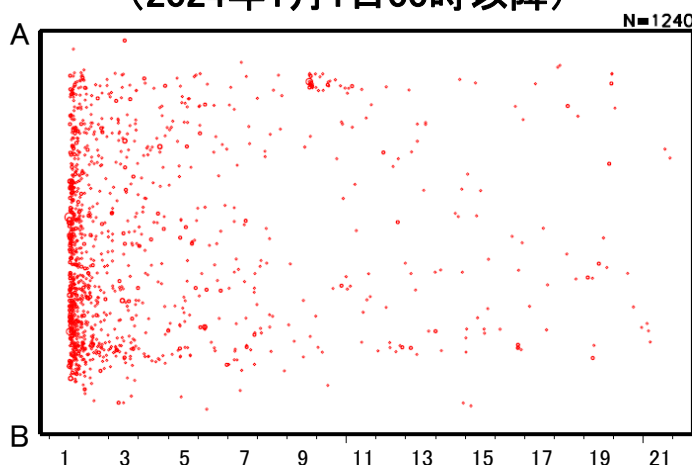
吹き出しは、最大震度5強以上の地震又はM6.0以上の地震



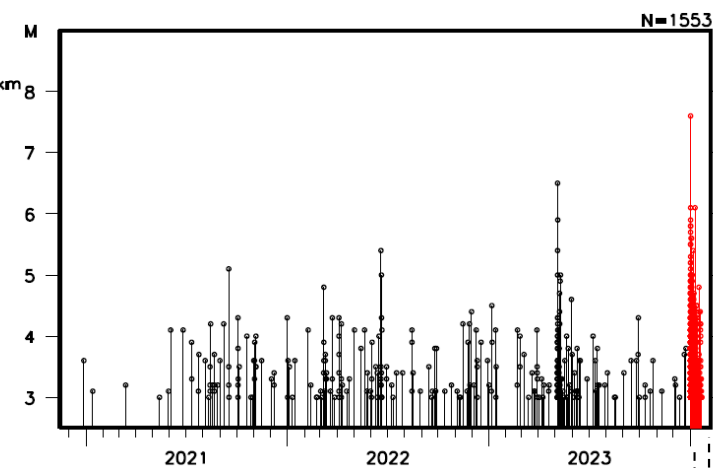
## 時空間分布図 (矩形領域内:A-B投影、 2020年12月以降)



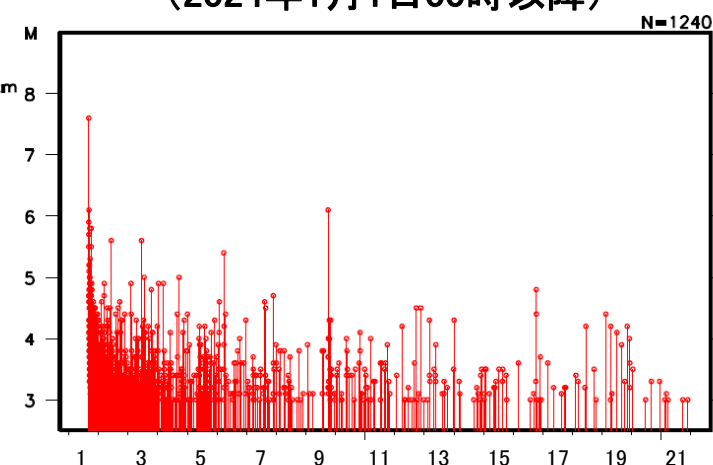
## (2024年1月1日00時以降)



## 矩形領域内の地震活動経過図 (2020年12月以降)



## (2024年1月1日00時以降)

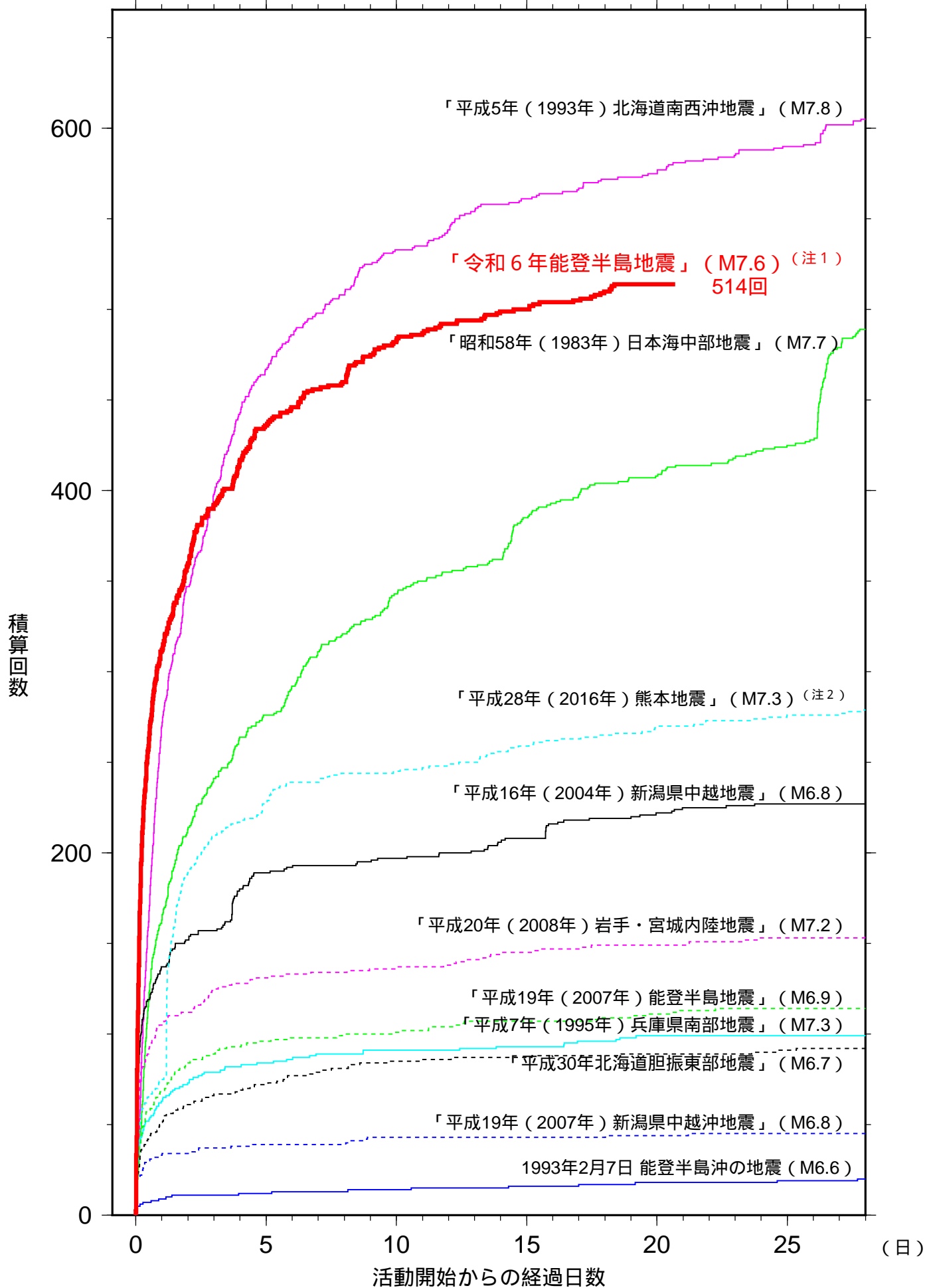


丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

表示している震源のうち、1月21日00時以降のものは速報値。

# 陸のプレートでの主な地震活動の地震回数比較 (マグニチュード3.5以上)

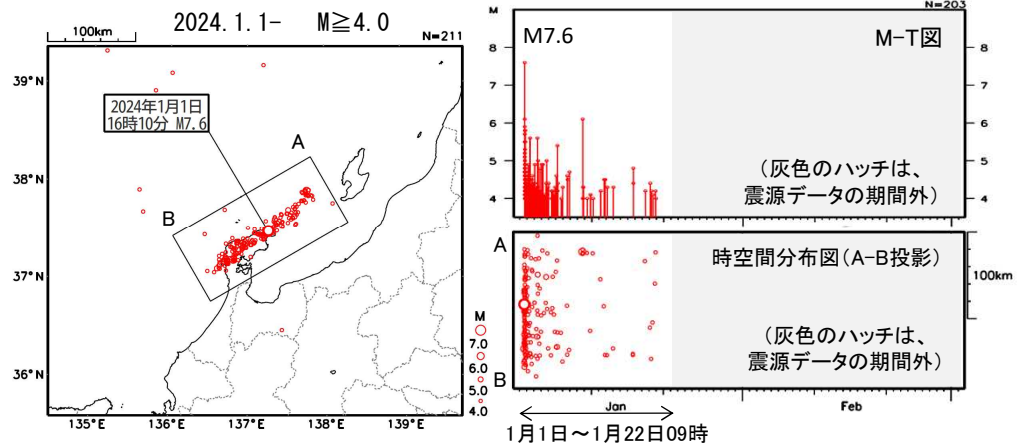
2024年01月22日09時00分現在



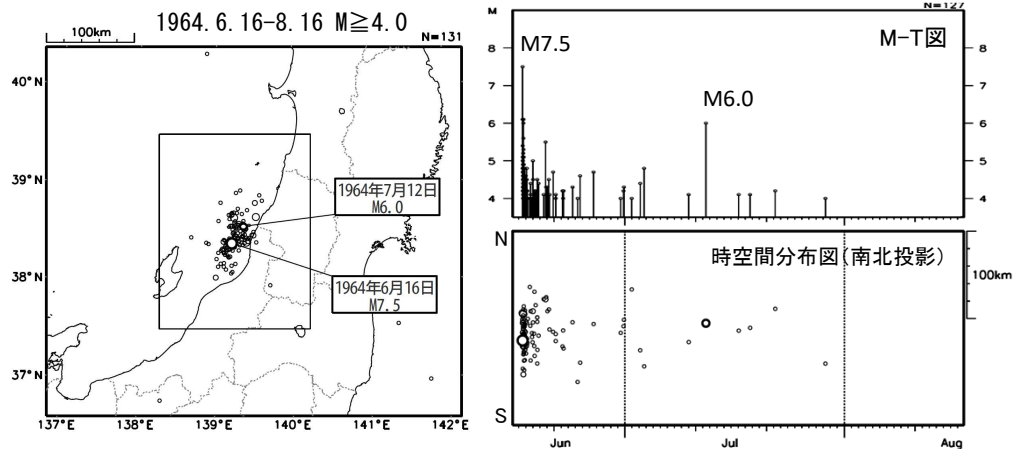
この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがある。  
今回の地震のマグニチュードについては、これまでの最大を示している。  
(注1) 2024年1月1日16時10分 (M7.6) の地震を起点にカウントしている。  
(注2) 2016年4月14日21時26分 (M6.5) の地震を起点にカウントしている。

# 日本海沿岸で発生した過去の大地震（地震活動比較、2か月間）

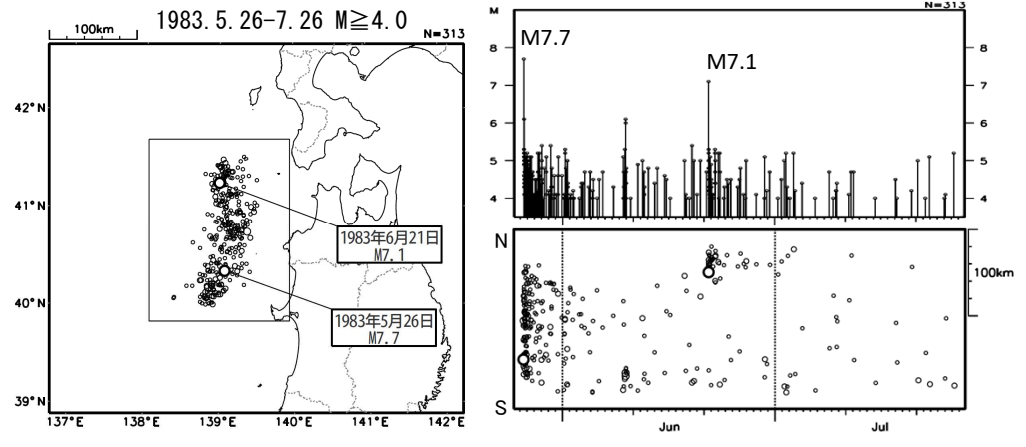
令和6年能登半島地震  
(M7.6, 最大震度7)



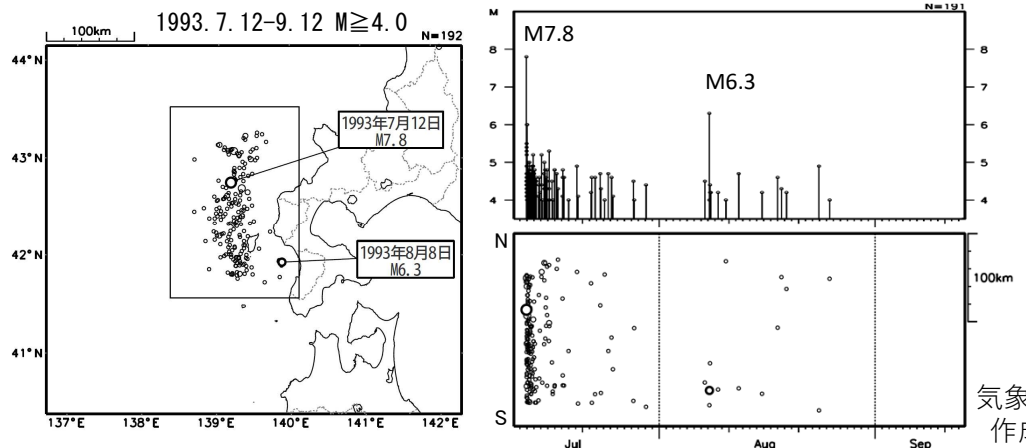
1964年新潟地震  
(M7.5, 最大震度5)



1983年日本海中部地震  
(M7.7, 最大震度5)



1993年北海道南西沖地震  
(M7.8, 最大震度5)



# 「令和6年能登半島地震」 地震発生確率の状況（1月22日00時00分現在）

- ・前回（1月15日）の報道発表時点では、「今後2～3週間程度、最大震度5強程度以上の地震に注意」としていました。
- ・本日の時点でも、最大震度5強程度以上※1の地震の発生する可能性は依然として高い状態です。発生する可能性が高い期間は「今後1週間程度」です。
- ・地震発生確率※2は1月1日のM7.6の地震発生当初に比べて1／8程度、平常時の100倍程度となっています。

## 地震発生確率の状況

地震発生確率の起点日時	地震発生当初との比較	平常時との比較
	最大震度5強程度以上※1	最大震度5強程度以上※1
1月22日00時	1／8程度	100倍程度

※1）確率は比較的低いものの、最大震度6弱以上を観測する地震が発生する可能性もあります。

※2）地震調査研究推進本部の報告書「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」（2016年8月）に基づき、以下の通りとしています。

- ・本資料における地震発生確率とは起点日時から3日間の地震発生確率です。
- ・地震発生当初の確率は、地震発生直後から3日間の確率を計算したものです。
- ・「地震の発生する可能性は高い状態」の判断は、1ヶ月に1回程度の発生に相当する確率値を基準にしています。
- ・平常時との比較で100倍を超えている場合は、「100倍超」としてしています。